

まちのアルバム

▼5月9日 三上こども園



国スポ障スポに向け、花いっぱい！

令和7年に開催される「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」の啓発活動である花いっぱい運動の一環として『花育て教室』を開催し、三上こども園の4歳児・5歳児が、推奨花であるマリーゴールドの定植を行いました。

花いっぱい運動は、景観を美しくし、市民の国スポ・障スポへの関心を高めるとともに、全国から訪れる人を育てた花で温かくお迎えする運動です。

参加した園児たちは土の感触や花の苗に興味津々。きれいな花が咲くよう、丁寧に植えました。

春季例大祭開催！

創建1300年を超える兵主大社で春季例大祭が開催され、各氏子の大神輿7基と女性による「あやめ神輿」が4年ぶりに担がれました。

神輿は、活気あふれる担ぎ手の大きな掛け声とともに一の鳥居から朱の鳥居へ参道を通り、沿道に集まった多くの観客を盛り上げました。

初めて春季例大祭を訪れた人は「賑やかな声と華やかな神輿の迫力に圧倒された。」と話していました。

▼5月5日 兵主大社



▲女性の担ぎ手による「あやめ神輿」



歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

(225)

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

出現期の古墳

—野洲市富波古墳—

市内には、国の史跡に指定されている8基の古墳「大岩山古墳群」があります。それらは当時、野洲川下流域一帯を支配した有力首長の墓と考えられています。中でも、最も古く位置づけられる富波古墳は、全長が40mを超え、ほぼ東西に主軸方向をとる前方後方墳です。

昭和57（1982）年の発掘調査で、その存在が明らかとなりました。調査に入る前、一帯は水田となっていて、墳丘はすでに削られていました。現在は、史跡公園として整備されています。

この古墳は、弥生時代に首長層（支配者）として独立し始めた人物の墓（周溝墓）だという考え方もあります。いずれにしても、弥生時代から古墳時代への移り変わりのなかで、どのように古墳が現れてきたかを考える、ひ

とつの手がかりを持っているといえます。

また、出土遺物に近江地域の特色をもつ甕^{かめ}だけでなく、東海地域に特徴的な丹塗^{にま}りの壺片^{つぼ}がみられることも、とても興味深いことです。

当館では、これらの土器を今月3日から7月9日まで展示しますので、この機会に、ぜひご観覧ください。

（博物館学芸員 角 建一）



富波古墳出土土器（野洲市教育委員会蔵）

※市民は入館無料（運転免許証やげんきカードをご提示ください。）

※休館日：月曜日

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。